

発表会参加報告

10月30日（日）に毎年恒例のフォレストパークあだたら生き物調査発表会が大玉村のフォレストパークあだたらのビジターセンター・レクチャーホールにて開催されました。例年12月中旬開催でしたが、積雪や年末近くという理由で最近では参加者が減少傾向でしたので、今年度は10月末開催にしてみました。一般参加は11名で、開催時期を早めた効果は残念ながら現れませんでした。福島大学の学生と教員も合わせると参加者は44名でした。発表は福島大学の生物系研究室の学生6名、教員2名の8題でした。プロジェクト関係（磐梯朝日国立公園内をフィールドとした発表）は塘研の院生が2題、黒沢研の院生が1題の3題でした。以下、簡単に報告します。

主催者を代表して公益財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団の遠藤さんから挨拶があった後、9:35頃から発表がスタートしました。質疑応答を含めて一人25分の持ち時間を設定して頂いたため、丁寧な説明と発表、十分な質疑応答が可能となりました。黒沢研の曲淵さん（B4）による松川浦津波跡地の保護区や海岸防災林の植物相や植生の発表、水澤研（人文学類）の後藤さん（M1）によるフォレストパークあだたらと福島市小島の森の花上捕食者であるクモ類の発表、そして塘研の武田君と難波君の発表で午前の部は終了となりました。遠藤さんの強力なプッシュのお陰で、昼食を食べながら、学生は一般参加者と意見交換、情報交換など、交流を深められたようです。午後の部は難波研の野田さん（D1）による猪苗代湖で実施している実習でとり続けた大腸菌群に関するデータに基づく発表、黒沢研の首藤君の発表（大学院での研究の総まとめ）、教員の部では今年度の「あだたら生物クラブ」の実施報告を兼ねて、植物の簡易結実率調査法によって在来種と外来種の結実率を比較した話を水澤先生がされました。塘は西郷村堀川ダムでのウチダザリガニ駆除活動と今後の展望（ウチダザリガニの資源化に向けた進捗状況）を報告しました。発表全体についての質疑・応答後、15:20頃に閉会となりました。

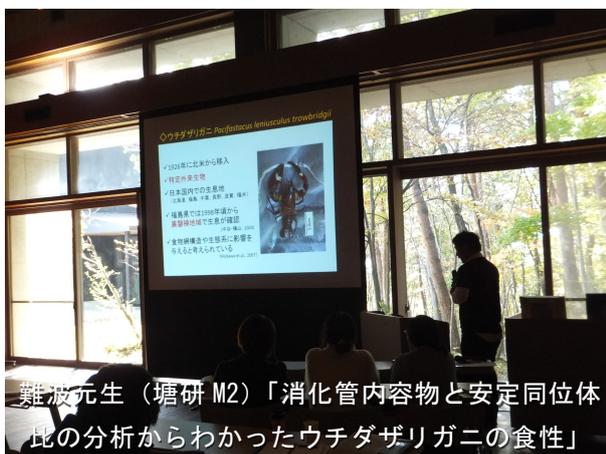
来年度の開催時期や広報活動の仕方については、主催者側と今後検討していきたいと思っています。



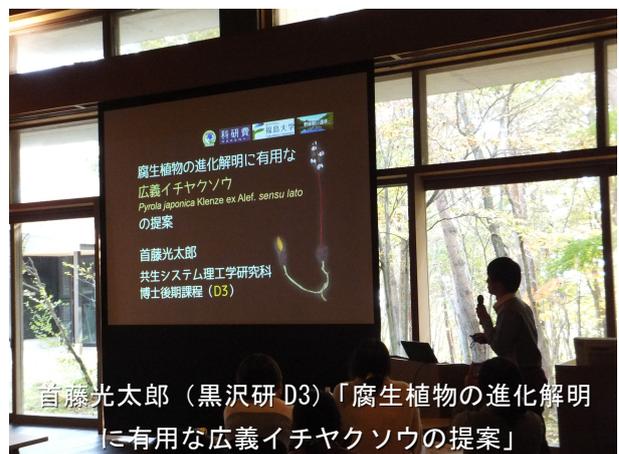
発表会会場と参加者の様子



武田悠太（塘研 M2）「酸性河川酸川における
コオノオナシカワゲラの生活史」



難波元生（塘研 M2）「消化管内容物と安定同位体
比の分析からわかったウチダザリガニの食性」



首藤光太郎（黒沢研 D3）「腐生植物の進化解明
に有用な広義イチヤクソウの提案」